令和８年度　学校マネジメントシート

学校名（　三重県立津工業高等学校　）

１　目指す姿

(1)	目指す学校の姿	校訓『質実剛健』のもと、「ものづくり、ひとづくり」を通し、「志、技、心」を育み、生徒の夢を実現し、次代の産業界を担う人材を輩出する学校
(2)	育みたい資質・能力（育みたい生徒の姿）／グラデュエーション・ポリシー	○　明確な目的意識を持ち、自己の進路実現に向かって努力することで、基礎学力と工業に係る専門知識・技術を身に付けた生徒 ○　地域や企業の期待に応えるために、基本的生活習慣が確立し、規範意識やコミュニケーション力等の社会人基礎力を身に付けた生徒 ○　心身ともにたくましく健やかで誠実、社会に貢献できるように、健康を保持増進し、他者を思いやり、命を大切にする人権感覚を身に付けた生徒
	ありたい教職員の姿	○　同僚、家庭・地域・企業等の関係者と連携・協働しながら、目指す学校像や教育目標等の理念の実現に主体的に取り組む教職員 ○　高い志と使命感、生徒に対する教育的愛情を持ち、教育に携わる専門家としての確かな力量を発揮しながら、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援にきめ細やかに取り組む教職員 ○　絶えず研究と修養に励みながら、わかりやすい授業の構築（授業改善）、また、部活動や生徒会活動、資格取得等の生徒の自主的・自発的な活動の充実に積極的に取り組む教職員

２　現状認識

(1)	学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	〈生徒〉学力向上や進路選択、部活動や資格取得等の自己実現への支援。安全・安心の学校づくり等 〈保護者〉生徒の自己実現への支援。安全・安心の学校づくり等 〈中学校〉多様な生徒の受け入れとそれに係る情報提供等 〈事業所・大学等の進路先〉基礎学力や専門知識・技術、社会人基礎力の育成等 〈地域〉地域の活性化に向けた連携。防災拠点施設としての活用等 〈同窓会〉歴史・伝統の継承とそれに係る情報提供等	
(2)	連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望･期待	連携する相手への要望･期待
		〈保護者、中学校、事業所・大学等の進路先、地域、同窓会〉同上	〈保護者、中学校、事業所・大学等の進路先、地域、同窓会〉教育活動への理解と協力・支援等
(3)	前年度の学校関係者評価など	○　部活動数の削減は、“部活動の津工業”という視点も大事にしながら進めてほしい。 ○　高大連携では、インターネットを活用した授業の実施や進学情報の効果的な提供等、進学保障も視野に、何にどう取り組むかを考える必要がある。	

		○　広報活動では、“中学生も保護者も工業高校を知らない”を前提に、見せる工夫が必要である。 ○　私立高校とは違う路線で、生徒が誇りを持てる学校を目指してほしい。
(4) 現状と課題	教育活動	○　魅力ある工業高校づくり（“津工業の再創造”）として、１人１台端末の活用授業改善に徹底的に取り組む。特に、課題研究において、地域・企業・大学等と連携した取り組みを行うことで生徒の成長につなげる。 ○　安心・安全な学校づくり（生徒支援）として、特に、生徒指導、人権教育、特別支援教育（教育相談）のさらなる充実に積極的に取り組む。
	学校運営等	○　家庭や地域とともにある学校づくり（広報活動）として、特に、教育活動の特長の効果的な発信に積極的に取り組む。 ○　働きやすく、風通しの良い職場づくりとして、特に、部活動数の削減への検討（着手）に取り組む。

3　中長期的な重点目標

教育活動／カリキュラム・ポリシー	〈建設工学科〉土木技術者、建築技術者としての活躍を目指し、木工実習や基礎測量等の共通の知識・技術とともに、建築コースと都市システムコースに分かれて専門的な知識・技術を学びます。 〈電気科〉電気技術者として活躍するために、国家資格の取得も視野に入れながら、発電・送電・配電から電気の応用まで、幅広い知識と技術を学びます。 〈電子科〉電子技術者としての活躍を目指し、電気の基礎から電子回路、通信技術や情報処理技術等の専門までの知識・技術を幅広く学びます。 〈機械科〉機械技術者としての活躍を目指し、全産業の基盤となる機械工学に必要な設計や工作、製図、原動機等の知識・技術を学びます。
学校運営等	信頼・期待される学校・教職員であるため、コンプライアンスの推進、資質・能力の向上、職場環境の整備（働きやすく、風通しの良い職場づくり）に取り組む。

4　求める生徒の姿

入学時に期待される生徒の姿／アドミッション・ポリシー	○　「ものづくり」に興味・関心があり、工業に係る専門知識・技術の習得に強い意欲を持ち、自己の進路実現に向かって主体的に学ぶ生徒 ○　ルールやマナーを順守し、良好なコミュニケーションを心がけながら、基本的生活習慣の確立に向かって弛みなく行動する生徒 ○　部活動や生徒会活動、資格取得等の自主的・自発的な活動の充実に向かって積極的にチャレンジする生徒

5　本年度の行動計画と評価

備考欄について　※：定期的に進捗を管理する取り組み　◎：最重点取組

(1)教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
教育課程・学習指導（課題研究による地域や企業・大学等との連携）	○教務部と進路指導部を中心に、基礎学力テストの実施やＩＣＴの活用等で、基礎学力の向上・定着を図る 【活動指標】 ① 基礎学力テストを１・２学年は各学期１回、３学年は年１回実施 ② 定期的な補習の実施 【成果指標】 1・2 学年基礎学力テストの結果について最低位ランク(D3)の生徒数が10%未満 ○各科を中心に、「課題研究」や資格取得に向けた支援等で、工業に係る専門知識・技術の習得を図る 【活動指標】 ① 地域・企業・大学等との連携を活用した「課題研究」の活性化 ② 資格取得に係る継続的な補習の実施 【成果指標】 資格試験合格率の向上（前年度比） ＜１学年＞ ○基礎学力の定着 ○授業・実習への準備を徹底させる 【活動指標】 基礎学力テスト 【成果指標】 ３科目（国語・数学・英語）において、D２ランク以上の生徒割合が９０％以上 ＜２学年＞ ○基礎学力の向上 ○課題発見・解決能力を身に付ける為に専門知識・技術の深化を図る 【活動指標】 一人一台端末を用いてマナビジョンを活用する。社会課題について学ぶ 【成果指標】 長期休暇中に課題を課し、課題提出率１００％。社会課題解決能力についての講習会を開く ＜３学年＞ ○課題研究において、地域企業・大学等と		※ ◎

教育課程・学習指導（課題研究による地域や企業・大学等との連携）	連携し、実社会の課題を題材とした学習を行う 〇生徒が主体的・協働的に課題解決に取り組むことで、専門的知識・技術の深化と進路意識の向上を図る 【活動指標】 ① 外部機関と連携した課題研究テーマの割合：各科で１テーマ以上 ② 進路指導部と連携したガイダンスの実施 【成果指標】 ① 課題研究発表会においてすべての生徒が発表に参加 ② 進路実現１００％ ＜建設工学科＞ 〇基礎基本を大切にし、分かりやすい授業を実践し、より実践的な学習活動に取り組む 〇地域や社会に貢献する将来の建設業の担い手を育成するため、産官学の連携を取りながら魅力ある建設の情報発信に取り組む 【活動指針】 ① ICT 等を有効活用し、視覚的に理解しやすい教材を活用し、基礎的な知識の定着と実習での安全指導の徹底を図る ② 現場見学や出前授業等を各学年で実施し、実際の建設現場や新しい技術に触れる機会や課題研究等での校外での活動の機会を提供する 【成果指標】 ① 授業での ICT 活用機会の向上と実習中の災害ゼロ ② 各学年年１回以上の現場見学、出前授業等を実施 ＜電気科＞ 〇基礎・基本の確実な定着を土台に、電気回路や電気現象の理解を深め、小さな「わかる」「できる」を積み重ねる授業を実践する。座学と実習を効果的に関連付け、安全意識の徹底と技能の向上を図るとともに、資格取得（第二種電気工事士等）を見据えた指導を通して、学習意欲と理解度の向上を目指す。また、分かりやすい授業設計と理解確認を徹底し、多くの生徒が主体的に参加できる環境を整える。		※ ※ ◎ ※

教育課程・学習指導（課題研究による地域や企業・大学等との連携）	【活動指標】 ① 生徒満足度アンケートを（年１回以上）実施する ②検定・資格試験の受験機会の確保および指導の充実 【成果指標】 ① 生徒満足度アンケートの満足度が70%以上 ② 情報技術検定３級　90%以上 計算技術検定３級　90%以上 危険物取扱者試験乙４　20名以上 第２種電気工事士　20名以上 ○地域・企業・大学等と連携した課題研究や実習を通して、社会と結び付いた学びを推進し、生徒の課題解決力と主体的な学習態度を育成する 【活動指標】 課題研究・実習において、地域・企業・大学等と連携した取組を（年間１回）以上実施する 【成果指標】 地域・企業・大学等と連携した課題研究や実習の実施回数 ＜電子科＞ ○1 人１台端末やデジタルファブリケーション機器（３D プリンタや切削工作機械等）を活用し、生徒のアイデアを具体的な成果物として形にする学習を推進する ○座学と実習の連動・相互作用を生かした指導を行い、理論理解と実践力の定着を図るとともに、学習段階に応じたきめ細かな指導を実施する ○教材、実習・課題研究テーマの更新・充実を行い、地域・企業・大学等と連携した実践的な学習内容の改善を進める 【活動指標】 ① 課題研究･実習における１人１台端末、デジタルファブリケーション機器の活用：年間５回以上 ②課題研究・実習における地域・企業・大学等と連携した取組回数：年間２回以上 【成果指標】 ①授業アンケートにおける「授業満足度（５段階)」：クラス平均 3.5 以上 ②課題研究年度末自己評価において「取組姿勢（５段階)」：クラス平均 3.5 以上		◎ ※ ◎ ◎

教育課程・学習指導（課題研究による地域や企業・大学等との連携）	＜機械科＞ 〇基礎・基本の確実な定着を土台に、小さな「わかる」「できる」を積み重ねる授業を実践し、学習意欲と理解度の向上を図る。また、分かりやすい授業設計と理解確認を徹底し、全ての生徒が授業に参加できる環境を整える。 【活動指標】 　授業評価アンケートを（年１回以上）実施する 【成果指標】 　授業評価において「授業が分かりやすくなるよう工夫がされていた」と回答する生徒の割合 70%以上 〇企業・大学等と連携した課題研究や実習を通して、社会と結び付いた学びを推進し、生徒の課題解決力と主体的な学習態度を育成する 【活動指標】 　課題研究・実習において、地域・企業・大学等と連携した取組を（年間１回）以上実施する 【成果指標】 　課題研究の成果発表や振り返りにおいて「協力して主体的に課題に取り組めた」と肯定的に自己評価する生徒の割合70%以上 〇教員間で教材や指導法の情報交換を行い、授業改善と授業力の向上を図るとともに、学習規律の確立と安全で整った学習環境づくりを推進する 【活動指標】 　教材や指導法について機械科教員間で情報交換を行う機会を（学期１回以上）設ける 【成果指標】 　科目の評定平均の維持または向上		※ ◎
キャリア教育・進路指導・資格	〇進路指導部を中心に、入学後の早い段階からのキャリア教育や職業教育等で、社会人基礎力の習得と自己理解の深化、一人ひとりの進路実現を図る 【活動指標】 　進路ガイダンス等の進路指導関連行事を各学年３回以上の実施 【成果指標】		

キャリア教育・進路指導・資格	① インターンシップ等の校外活動参加の生徒数の大幅な増（前年度比） ② 進路決定率 100％ ＜１学年＞ 〇進路実現に向けて、早い段階でのキャリア教育、職業指導を授業の中で行う 【活動指標】 　進路希望アンケート 【成果指標】 　年度末に進学か就職かを全員が決めている 〇資格取得への支援 【活動指標】 　全国工業高等学校長協会等の検定試験や国家資格試験 【成果指標】 　１人３つ以上の資格・検定に合格する ＜２学年＞ 〇進路指導部と連携を取りながら、生徒一人ひとりの進路実現に向けてキャリア教育を行う 〇資格取得 【活動指標】 　『高チャレ』を用いてキャリア教育を行う。資格の情報提供 【成果指標】 　各 HR において年間２回は『高チャレ』を用いた LHR を行う。今年度１人１つは資格に挑戦する ＜３学年＞ 　キャリア教育と資格取得を通して、主体的な進路選択と就職・進学に必要な力を育成する 【活動指標】 ① 進路選択に向けた面談の実施一人 3 回以上 ② 資格取得に向けた案内を適宜行う 【成果指標】 ① 進路実現１００％ ② 資格を未所持の生徒０人 ＜建設工学科＞ 〇資格は将来の仕事を考えるためにも、またより深い知識を主体的に学ぶ機会で		※

キャリア教育・進路指導・資格	もあるので、資格試験等の指導を充実させて合格率の向上に取り組む 【活動指針】 ① 各種資格試験に対する教員間での情報共有や補習時間の確保に取り組む ② 産官学の連携により実施される学習会や講習会を活用し合格率の向上に取り組む 【成果指標】 1年生のクラス全体で受験するものにおいては、計算技術検定3級 80%以上、情報技術検定3級 60%以上の合格を目指します。上位学年はそれぞれのコースの上位資格に挑戦し、合格を目指す ＜電気科＞ ○学年進行に応じたキャリア教育を実施し、生徒が主体的に進路を考え、電気技術者としての将来像を描ける力を育てる 【活動指標】 電気関連企業や電力会社、設備保全企業などの外部講師による講話や企業人との交流活動を（年間1回以上）実施する 【成果指標】 ① 希望企業への就職内定率　100% ② 希望工学系進学先への合格率　100% ○電気技術者として求められる基本的習慣（安全意識、時間厳守、正しい言葉づかい）の定着を図る 【活動指標】 実習前点呼、安全指導を毎時間実施し、電気実習室の安全・整備・美化をおこなう 【成果指標】 電気実習作業中の重大事故・災害ゼロ ○資格取得指導を充実させ、専門性の向上と達成感を高める 【成果指標】 情報技術検定3級　90%以上 計算技術検定3級　90%以上 危険物取扱者試験乙4　20名以上 第2種電気工事士　20名以上 ＜電子科＞ ○HR活動や日常の指導を通して教員と生徒のコミュニケーションを充実させ、進路や資格取得に関する意識の向上を図る		※

キャリア教育・進路指導・資格	○あいさつの励行や提出物の期限厳守など、社会や企業から信頼される人材の育成を意識した指導を継続する ○資格・検定への積極的な挑戦を促すことや、教員間で進路・資格に関する情報共有を行い、組織的な指導体制を構築する 【活動指標】 ①資格・検定試験に向けた補習実施日数：年 25 日以上 ②教員間での進路・資格情報共有の機会（会議・資料共有等）：年間５回以上 【成果指標】 ① 全員受検の資格・検定における合格率 １年生：　情報技術検定３級：95％以上 ２級陸上特殊無線技士：95％以上 ２年生：　情報技術検定２級：60％以上 ② 実習レポート提出期限遵守：95％以上 ＜機械科＞ ○学年進行に応じたキャリア教育を実施し、生徒が主体的に進路を考え、選択できる力を育てる 【活動指標】 外部講師や企業人との交流活動を（年間 2 回以上）実施する 【成果指標】 ①希望就職先の内定率 100％ ②希望進学先の合格率 100％ ○あいさつや言葉づかい、時間を守るなど、社会人として必要な基本的な行動の定着を図る 【活動指標】 実習前点呼、安全指導、5S を毎時間実施し、実習環境の整備・美化を徹底する 【成果指標】 実習・作業中の重大事故・災害ゼロ ○　資格取得指導の充実を図り、専門性と達成感を高め、自信につなげる 【活動指標】 資格指導に関する情報共有・検討を（学期 1 回以上）実施する 【資格取得目標】 ① 危険物取扱者乙４　　50％以上 ② 技能検定３級　　80％以上 ③ 基礎・機械製図検定　50％以上		※ ※

生徒指導	○生徒指導部を中心に、登校指導や頭髪服装指導等で、基本的生活習慣の確立を図る 【活動指標】 ① 各種指導の継続的・定期的な実施 ② 遅刻と途中退出回数を担任団と共有し、学期の回数に応じて挨拶運動などの指導を行う 【成果指標】 遅刻数と授業途中の退室数を 20%減少（前年度比）させる ○生徒指導部を中心に、道徳教育や人権教育等を実施することで、いじめや暴力を反対する立場をとれるようにする 【活動指標】 ① いじめ防止委員会の迅速な開催と積極的ないじめ認知 ② 早期に認知できるよう担任や各分掌と情報共有を密にする 【成果指標】 いじめ認知の機会数（いじめ防止委員会開催数）を増加（前年度比）させた上で、いじめ認知数を減少（前年度比）させる		※ ◎ ※ ◎
保健管理・教育相談（特別支援教育）	＜保健＞ ○健康診断や健康相談等を通して、自らの健康状態を把握し、健康の保持増進を図る態度の育成に努める。また心身ともに健康で安全な生活を主体的に送れるように基本的な生活習慣の形成に努める 【活動指標】 ① 健康診断後の精密検査受診率 100% ② 保健講話の実施（各学年１回） ③ 保健だよりの発行（年１０回以上） ④ 救急体制の充実を図る 【成果指標】 ① 健康診断後の精密検査受診率の向上 ② 保健室来室者の同一症状による来室の減少 ③ 保健講話の理解度 80%以上 ④ ケガや事故の発生件数の減少 ＜教育相談＞ ○保護者、担任、学年主任、部活動顧問等と情報を共有しながら、全ての教育活動をとおして、生徒の悩みや不安の解決に向けた支援や対応を行う 【活動指標】		※ ◎ ※ ◎

保健管理・教育相談（特別支援教育）	① スクールカウンセラーによる教育相談の実施(年３５回) ② 学校生活スペシャルアドバイザーとの面談の実施（年１３回） ③ スクールカウンセラーによる相談室だよりの発行（年３回） ④ 命の教育の実施（年１回） 【成果指標】 ① 心身の不調に関する相談件数のうち、早期対応に繋がったケースの割合の増加 ② 関係機関との連携回数やケース会議の実施回数の増加		
人権教育	○人権教育担当を中心に、人権ＬＨＲや人権講演会等で、自他を尊重し、命を大切にする人権感覚の習得を図る 【活動指標】 ① 公開人権ＬＨＲの年１回の実施 ② 生徒向け人権教育通信の毎月１回以上の発行 【成果指標】 人権侵害（差別事象）認知の機会数を増加(前年度比)させた上で、人権侵害(差別事象）発生数を減少（前年度比）させ、根絶を目指す		
改善課題			
（年度末に記載）			

(2)学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
教育環境整備	○教務部（情報担当）を中心に、１人１台端末の整備等で、ＩＣＴの活用や校務の効率化を進める 【活動指標】 ＩＣＴ活用に向けた継続的支援の実施 【成果指標】 教員のＩＣＴ活用指導力の状況調査において、すべての項目で「できる・ややできる」の割合増（前年度比） ○図書部では、授業等での図書館活用を進める 【活動指標】 図書館の利用状況確認 【成果指標】 図書館の利用 100 時間以上		
教育環境整備	○事務部を中心に、金品管理や施設整備		

	を行い、安全・安心の学校づくりを進める 【活動指標】 　定期的な安全等確認の実施 【成果指標】 　管理不足、整備不良の発生数の減少（前年度比）させ、根絶を目指す		
保護者・地域住民等との連携	○総務部を中心に、広報活動およびＰＴＡ・同窓会等の関係機関との連携を強化し、家庭や地域から「見える・伝わる」学校づくりを進める 【活動指標】 ① 電光掲示板・学校ホームページによる情報発信の実施 ② 中学生向け広報資料の内容充実 【成果指標】 ① 電光掲示板・学校ホームページを通じて、継続的に発信 ② 工業高校の強みが伝わるように内容を検討し、津市・鈴鹿市を中心とする近隣中学校に100％配布する		
研修・資質向上の取組	○各分掌（担当）を中心に、授業改善、コンプライアンス・ミーティングや現職教育等の校内研修等で、信頼・期待される学校づくりを進める 【活動指標】 ① 授業見学週間の年２回の設定 ② 校内研修の年５回以上の実施 【成果指標】 ① 校内研修参加教職員数増（前年度比） ② 不適切な指導の発生数０		
組織運営	○働き方改革や健康管理を行い、働きやすく、風通しの良い職場づくりを進める 【活動指標】 ① 毎月１回定時退校日を設定し、定時退校100％になるように働きかける ②部活動休養日（週１日）に積極的に年休を取得する ③ １時間以内に終了した会議の割合が100％になるように会議を運営する ④ 閉校日の年１日以上の設定 【成果指標】 ① 時間外在校等時間年360時間超の教職員数０人 ② 時間外在校等時間月45時間超の教職員（延べ）数０人 ③ 全ての職員が年間休暇取得日数10日以上取得する		※

改善課題
（年度末に記載）

6　学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	（年度末に記載）

7　次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	（年度末に記載）
学校運営についての改善策	（年度末に記載）